

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350318

研究課題名(和文) ソーシャルメディアを活用したキャリア学習支援の経年的評価

研究課題名(英文) Career Learning Support Using Social Media: An Evaluation over Time

研究代表者

高橋 薫 (Takahashi, Kaoru)

早稲田大学・人間科学学術院・准教授

研究者番号：70597195

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではソーシャルメディアを活用したキャリア学習支援の経年的評価を行った。対象はソーシャルラーニングプログラム Soclaの参加者の高校生である。まず、実践の評価を行い、次に、大学生となった修了生にインタビュー調査を行った。このうち、ブレンド型学習で参加した非母語話者学生Aの調査では、Soclaの活動が青年期における自己形成の大きな転換点となっていることが分かった。また、地方から全日程オンラインで参加した学生Hの調査では、Soclaへの参加を通して得られた人と人のつながりに価値を見いだしており、それがH自身の有用な社会的資本となっていることや進路選択に影響を及ぼしていることが分かった。

研究成果の概要(英文)：This study evaluated the benefits of using social media in providing career learning support over time. The subjects were high school students who participated in the Socla social learning program. The life stories of graduates who went on to enter universities were researched by conducting interviews with them.

In a survey of students who were non-native speakers (A) and who participated in blended learning, we found that the Socla activities were a major turning point in their self-development during adolescence. In addition, by surveying students who participated in fully online learning (H), it was found that participation in the Socla social learning program afforded more value due to the human interactions involved, which in turn served as useful social capital for (H) students, and furthermore influenced their career decisions.

研究分野：教育工学

キーワード：キャリア学習 ソーシャルメディア ソーシャルラーニング 進路選択自己効力 高校生

### 1. 研究開始当初の背景

変化の時代をどのように生き抜くかは、現代人にとっての大きな課題である。典型的な生き方モデルの崩壊した現代においては、「子どもたちや若者一人一人が自分なりの生き方モデルを模索し築いていかねばならずそのためにもキャリア教育が必要」(鹿嶋2012)であり、個人がキャリアを開発する時代であると(児美川2012, 2013)と考えられている。このような次代の要請の下、東京大学ベネッセ先端教育技術学講座 (BEAT) では2010年度から2012年度の夏休みに高校生を対象としたソーシャルラーニングプログラム Socla (ソクラ) を実施した。Socla は高校生と支援者の大学生や社会人をソーシャルメディアでつなぎ、キャリア学習を支援するプログラムである。学習のプラットフォームとして、2010年度は Twitter を、2011年度と2012年度は Facebook を使用した。Socla の実践は2012年度で終了したが、修了生は2013年3月から順次高校を卒業し、大学生となる。本研究では、学習のプラットフォームとして Facebook を使用した2011年度と2012年度の学習者を対象に調査を行う。

### 2. 研究の目的

本研究ではソーシャルメディアを活用したキャリア学習支援の経年的評価を行う。まず、(1)Socla の2011年度、および、(2)2012年度の実践の評価を行う。次に、(3)大学生となった Socla 修了生にインタビューを行い、彼らが Socla での学びをどのように意味づけているのかを明らかにする。

### 3. 研究の方法

#### (1)2011年度の実践 (ブレンド型学習)

実践の前後に PAC 分析 (Personal Personal Attitude Construct Analysis) を行い、高校生のキャリア観がどのように変容するのかを明らかにする。

#### (2)2012年度の実践 (ブレンド型学習+全日程オンライン学習)

学習者の Facebook の利用状況を分析する。また、実践の前後に質問紙調査を行い、進路選択自己効力の変化などを比較する。さらに、実践の前後で進路不安が減少した人と増加した人に半構造化インタビューを行い、活動との関係を明らかにする。

#### (3)修了生へのインタビュー調査

高校を卒業し、大学生となった修了生のうち、同意を得られた修了生にインタビュー調査を行う。事前に Socla の活動を振り返るワークシートを作成してもらい、ワークシートを参照しながらひとり 90 分程度のインタビューを行う。

### 4. 研究成果

#### (1)2011年度の実践の評価

参加者の高校生1名(地方から参加した高校2年生女子)に、実践の前後に PAC 分析を実施した。その結果、活動前は「CL1. 将来の夢(趣味の延長)と進路への不安」「CL2. 理想の人間像」「CL3. 現実の進路」という3つのクラスターが抽出され、自分の将来の夢と実際の進路選択を分けてとらえていることが分かった。しかし、活動後には「CL1. 進路/将来の夢」「CL2. 理想の人間像」それらが統合されており、キャリア観を大きく変容させていることが明らかになった。〔雑誌論文 1

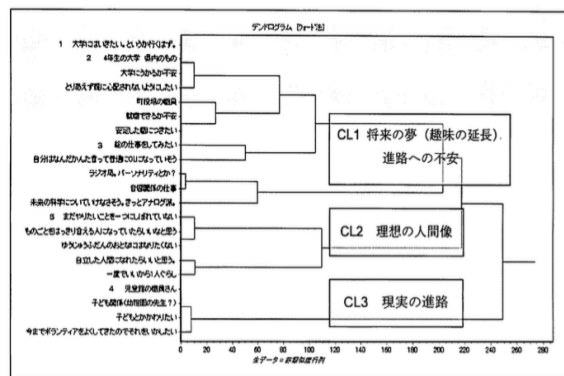


図1 事前調査のデンドログラム

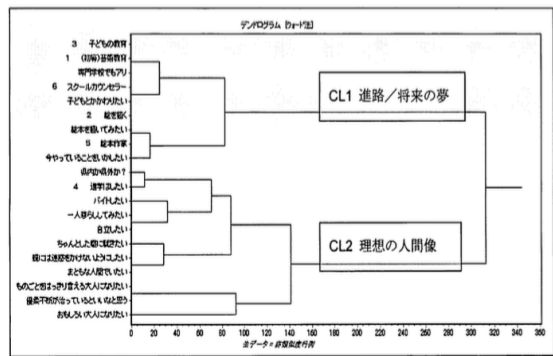


図2 事後調査のデンドログラム

#### (2)2012年度の実践の評価

参加者の高校生56名(ブレンド型学習28名,全日程オンライン学習28名)の Facebook の利用状況, 質問紙調査, 半構造化インタビューの結果から、本実践を評価した。その結果、Facebook の利用状況の分析からは、全日程オンラインの場合、ブレンド型よりも離脱率が高いものの、海外への意識について、修了者の学習への参加度が高いことが分かった。次に、活動の前後で実施した質問紙調査に、対応のある t 検定を行った。その結果、事前から事後にかけて進路決定不安が

表1 受講者の参加状況内訳

参加形態		受講者数 (人)	修了者数(人) (離脱者数)	離脱率 (%)
完全 オンライン	男子	9	5 (4)	44.4
	女子	19	11 (8)	42.1
	計	28	16 (12)	42.9
ブレンド型	男子	11	10 (1)	9.1
	女子	17	16 (1)	5.9
	計	28	26 (2)	7.1
合計		56	42 (14)	25.0
		男子20	男子15 (5)	
		女子36	女子27 (9)	

有意に減少し ( $t(41)=-4.89, p<.001$ ), 将来への希望が有意に増加した ( $t(41)=3.42, p<.01$ ) ことが分かった。また, 進路選択自己効力が有意に増加した ( $t(41)=8.67, p<.001$ ) ことが確認された。さらに, インタビュー結果から, 支援者との対話やソーシャルメディアを活用した対外的な公開質問が, 学習者の認識の深まりに寄与していることが示唆された。〔雑誌論文 2〕

### (3) 修了生へのインタビュー調査

2011年度および2012年度の修了生のうち, 了承が得られた19名にインタビュー調査を実施し, インタビューの分析を進めている。このうち, 2011年度の参加者(首都圏から参加した非母語話者男子学生)と2012年度の参加者(地方から全日程オンラインで参加した女子学生)のインタビューを, ライフストーリー研究として学会発表を行い, 論文を投稿した。分析中のインタビューも, 順次論文化していく準備を進めている。

#### <非母語話者である修了生のライフストーリー概要>

首都圏の大学へ通う非母語話者の男子学生Aにインタビューを行った。Aは中学2年次に父親の仕事の都合で来日し, 首都圏の公立中学校へ編入した。その後, 首都圏の公立高校へ進学し, 2011年の高校2年の夏休みにSoclaに参加した。Aは高校卒業後第一志望の大学に入学し, 中国語を専攻している。インタビューは大学1年次が終わった春休みに実施した。

Aが母国で生活していた幼少期は, 教師や同級生から一目置かれる優等生であった。来日した当初は日本語で苦勞したものの, 首都圏の公立高校に進学し, 日本語クラスの教員の勧めでSoclaに参加した。Aは, 当時は意識していなかったものの, 今振り返ると当時の自分は「マスクをかぶっていた」と述べている。優等生のマスクをかぶった自分は, 常に他人によいところを見せようと構えており, Soclaで出会った他の学生が自分より優秀であると感じ, 焦ってしまったという。プ

ログラム終了後も参加者同士はソーシャルメディアでつながっており, 学生同士で個人的に会ったりしていたものの, A自身はその輪の中に入っていくことができず疎外感を感じるがあった。しかし, それは自分がマスクをかぶって他者と距離をおいていたためであり, 他者と関わるにはこの構えを外す必要があると気がついたという。また, Soclaの活動以降, 自分が常に一番でなくてもよいと思えるようになり, 進路選択の際にも偏差値に囚われることなく, 自分の信念を貫き通すことができるようになったという。これらの変化のきっかけがSoclaの活動であったと述べている。

ソーシャルメディアの特徴は学びのプロセスが可視化されることにある。ソーシャルメディア上のコミュニティでは, すべての参加者が均等に対話を行っているわけではなく, コアとなるメンバーが積極的に投稿し, 周辺メンバーはその様子を垣間見ながらコミュニティ上で自分なりの学びを深めていく。Aは自分以外の他者がFacebook上で支援者や高校生同士で対話を積み重ねていく様子を知ることによって, 自分より優れた(と自分が思える)他者の存在を知ることになった。Aは焦燥感から他の高校生とはソーシャルメディア上でほとんど対話することができなかったが, 対話をしなかった(できなかった)ことが契機となってアイデンティティのゆらぎが生じ, それが自分自身を変えていく大きな転換点となったととらえていることが分かった。〔雑誌論文3, 学会発表1〕

#### <地方から参加した修了生のライフストーリー概要>

地方の看護福祉系の大学へ通う女子学生Hにインタビューを行った。Hは当時九州地方の高校3年生で, 進路選択に迷っていたところ, 父親の勧めでSoclaに参加した。全日程をオンラインで参加し, 参加者中最もFacebookへの投稿数が多かった。インタビューは大学1年次が終わった春休みに実施した。

Hは参加当時のことを振り返り, 次のように回想している。地方の一高校生にとっては自分の身近にある「目に見える職業」しか職業ではなく, 進路選択も自ずと目に見えるところからしか選ぶことができなかった。しかし, Soclaでの支援者との対話を通して, これまでの自分の世界や自分自身の存在の小ささに気づかされたという。そして, この気づきが, 現在の自分の学びの原動力となっていると述べている。そして, 高校卒業後は養護教諭を目指して看護福祉系の大学へ進学したものの, 入学後は自分の進路選択に行き詰まりを感じていた。しかし, Hは現在の状況にただ絶望しているのではなく, 状況を冷静に判断し, 他大学の大学院への進学も視野に入れながら, 将来を模索している様子が窺えた。

Hの進路選択は典型的なサクセスストーリーとは異なり、多くの迷いや苦悩が見え隠れしている。しかし、そのような中であっても一貫して見られるのは、困難に直面しても立ち直ることができるレジリエンス(resilience)の強さである。HはSoclaへの参加を通して得られた人と人のつながりに価値を見いだしており、それがH自身の有用な社会的資本となっていること、また、進路選択に影響を及ぼしていることが分かった。〔学会発表2〕

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 4件)

- (1) 高橋 薫, 荒木 淳子, 藤本 徹, 大辻 雄介, 鈴木久, 山内 祐平 (2013) ソーシャルメディアを活用したキャリア教育支援プロジェクトを通しての高校生のキャリア観の変容. キャリアデザイン研究, 9: 19-33 【査読付】
- (2) 高橋 薫, 藤本 徹, 荒木 淳子, 高橋 淳, 谷内 正裕, 山内 祐平 (2013) Facebookを利用したキャリア学習環境の実践と評価. 日本教育工学会論文誌, 37 (3): 269-285 【査読付】
- (3) 高橋 薫, 藤本 徹, 山内 祐平 (印刷中) ソーシャルメディアを活用したキャリア学習環境を学習者はどのように捉えているか-ベトナム人学生へのライフストーリーから-. ヨーロッパ日本語教育20 (第19回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム 報告・発表論文集 The Proceedings of the 19th Japanese Language Symposium in Europe)
- (4) Kaoru TAKAHASHI, Toru FUJIMOTO, Junko ARAKI, Kiyoshi TAKAHASHI, Masanori YACHI, Yuhei YAMAUCHI (査読中) Assessment of a Learning Environment that Using Facebook to Support Career Learning for High School Students. *Educational Technology Research*

〔学会発表〕 (計 2件)

1. 高橋 薫, 藤本 徹, 山内 祐平 (2015) ソーシャルメディアを活用したキャリア学習環境を学習者はどのように捉えているか-ベトナム人学生へのライフストーリーから-. 第19回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム (The 19th Symposium on Japanese Language Education in Europe), Université Bordeaux-Montaigne 【査読付】
2. Kaoru Takahashi, Toru Fujimoto, Yuhei Yamauchi (2015) The impacts of career learning using social media

on career decision-making: From the life story of a SOCLA student of the social learning program. 2015 IAEVG International Conference, Tsukuba, Japan 【査読付】

〔図書〕 (計 0件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者  
高橋 薫 (TAKAHASHI, Kaoru)  
早稲田大学・人間科学学術院・准教授  
研究者番号: 70597195

(2) 研究分担者  
山内 祐平 (YAMAUCHI, Yuhei)  
東京大学・大学院情報学環・教授  
研究者番号: 50252565

藤本 徹 (FUJIMOTO, Toru)  
東京大学・大学総合教育研究センター・特任講師  
研究者番号: 60589323